

第36回

日本神経免疫学会学術集会



The Japanese Society for Neuroimmunology  
日本神経免疫学会

# モーニングセミナー3

日時 2024年 **10**月 **5**日 **土**

**8:50 – 9:50**

会場 第3会場 富山国際会議場 2F 203・204

座長

**松井 尚子** 先生

徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床神経科学分野

演者

**野寺 裕之** 先生

天理よろづ相談所病院 神経筋疾患センター・脳神経内科

## 新ガイドラインを踏まえた 多巣性運動ニューロパチーの アップデート

【共催】第36回日本神経免疫学会学術集会／一般社団法人 日本血液製剤機構

# 新ガイドラインを踏まえた 多巣性運動ニューロパチーのアップデート

天理よろづ相談所病院 神経筋疾患センター・脳神経内科 野寺 裕之 先生

CIDP/MMN診療ガイドラインが2024年に改訂された。前回のガイドライン制定時よりMMNの病態理解・治療に大きなブレークスルーがあったとは言い難いが、最も大きな変化としては画像診断の分野が考えられる。

MMNに関して新ガイドラインでは3つの臨床的・クエスチョン(CQ)を設定したので、以下に紹介する。

**CQ1** MMNの診断において、電気生理学的検査は推奨されるか？

**推奨** MMNの診断において、電気生理学的検査を行うことを推奨する。

**CQ2** MMNの治療において、免疫グロブリン療法は推奨されるか？

- 推奨**
- (1) 静注療法による寛解導入療法を強く推奨する。
  - (2) 静注療法による維持療法を強く推奨する。
  - (3) 皮下注療法による維持療法を条件付きで推奨する。

(注)免疫グロブリン皮下注療法は現時点で承認薬は無い。

**CQ3** MMNの治療において、免疫抑制療法は推奨されるか？

**推奨** 免疫抑制療法を行わないことを推奨する。

その他、新ガイドラインでの記載事項につきレビューを行い、エビデンスに乏しいながら重要と思われるトピックにも言及する。MMNの有病率に地域差が大きいことが指摘されており、underdiagnosisのため治療を受けていない患者が一定数いると推察される。